

概要報告

実施期日	7月29日(火) 【午後】
部会名	小学校 体育部会

テーマ 『進んで運動に取り組み、お互いに学びを高め合う体育学習』
～跳び箱運動の学習を通して～

提案概要

事前アンケート調査の結果から、相互評価等の学び合いを積極的に取り入れることによって、一人ひとりの自己有用感を高め、技能や意欲等の向上が期待できるのではないかと考え、授業実践に取り組んだ。

具体的には、学習カードに友達からの励ましやアドバイス等を記入する欄を設けて活用したり（アウォード活動）、相互評価を活発化するために道德との関連を図り、帰りの会等で友達への「光る言葉」を集める活動を行ったりすることで、「進んで運動に取り組み、お互いに学びを高め合う体育学習」を目指して、取り組みを進めた。

◎成果と課題

- 【成果】
- ・友達からのアドバイスが役に立つと答えた児童が増加し、授業の様子からも、友達同士の教え合いの場面が増え、児童同士で運動の仕方を考え、教師から教わるだけではなく、主体的に運動に取り組む姿が見られるようになった。
 - ・めあてを明確にし、技のポイントを押さえることで自分の学習の高まりが実感できるとともに、友達へアドバイスする際や褒める際の視点を与えることができた。
 - ・友達と教え合い、励まし合う機会が増え、事後のアンケート調査からも「技ができるようになった。」 「技が上手になった。」という技能面の向上と、「友達に褒められた。」 「友達と協力して運動した。」というような意欲の向上が見られた。
 - ・教え合い等の相互評価の過程で、他者の動きを言葉で伝えることにより、自分の動きも考え、思考・判断の向上にもつながったように思える。
 - ・道德で行った「光る言葉」と関連させたことで、励ましやアドバイスの言葉が自然な形でできるようになった。
- 【課題】
- ・自分が思ったことを書いて伝えることはできるが、その場で相手に伝えることが難しく、なかなか言葉が出てこない児童もみられた。
 - ・学び合いをより効果的にするためにも、言語活動の高まりが必要である。
 - ・多くの練習の場を設定したことで、1単位時間内に全員の観察を行うことが難しかった。

質疑概要

- 躓いている児童の姿を教師が真似をして見せたのはなぜか？
→できていないことをみんなの前でやらせる児童の気持ちを考慮して、自分が真似をして見せた。
- 提案資料に発表会で「関心・意欲・態度」をみるとあるが、どのようにみたのかを教えてください。
→授業の最初と最後の違いを見たかったので、発表会の場面でも、観察と学習カードから「関心・意欲・態度」を評価項目に入れた。
- グループ内の教え合いとあるが、異質・等質グループ毎の人数の違いがあった場合、どのように対応をしたのか？また、教え合いをする時のポイントを教えてください。
→どちらの場合も、ペアを作ってから編成した。また、新しい技を最初に練習する時に、異質グループをつくることで、技ができる子にポイントを伝えてもらえ、教師は全体を見ることができる。
- 今回の映像になかった、苦手な児童の発表はどうだったか？
→段の低い場を設定して、自分たちができる場を考えて発表していた。
- 動画（ICT）を使った指導について。
→学校にあるデジカメ、ビデオ等を使用した。見学の子やグループの仲間が撮って、いくつかの場面を記録して、その場で見た。また、DVDは体育館に準備をしたが、給食中などにも見せて活用した。

研究協議概要

全体での研究協議は行わず、協議の柱「意欲が高まり、思考・判断、技能の向上につながる相互評価等の学び合いの在り方」について、グループ（4～5人）で討議をし、各グループが発表をする形で交流を行った。

【教え合い】

- ・ 道德と関連していたので、教え合いが上手くいっていた。
- ・ 低・中学年では励ましはできるが、技能の向上につながる声掛けは難しい。（技のポイントが分からない。）
- ・ 励まし合いは、果たしてどこまでできるのか？できるやりたい子は、どんどんやってしまうのではないか？
- ・ 友達のアドバイスがあった今回のやり方は、分かりやすかった。
- ・ 児童同士の声掛けも「意欲」と「技能」に分かれるので、教師側がきちんと教えないと、共有できない。感覚の共有は難しい。

【技のポイントと相互評価】

- ・ 技のポイントが分かっていると相互評価はできない。
- ・ 技のポイントを絞ってアドバイスをするのは良い。
- ・ 解決方法や技のポイントを児童が自分達で考えても良いのではないか。
- ・ 相互評価は難しい。

【学習カード】

- ・ 今回の学習カードは、オリジナリティーがあって良いが、書かせるのに時間がかかるのが課題。
- ・ できる子もアドバイスができるように「アドバイスカード」のようなものがあると良い。そうすることで、みんなでカードを共有できるし、みんなで作っていけるカードになる。（ルールを作るときも有効）

【器械運動について】

- ・ 器械運動は、学年の積み重ねが大切なので、系統性が大切になってくる。
- ・ 跳び箱運動では、技のポイントが大切でこれを評価するのが難しい。このポイントを知るために、掲示物や動画も良かったが、スタートする場所に、その技毎のポイントが書かれたものがあると良いのではないか。

【ICTの活用】

- ・ 上手な子のビデオと自分を重ね合わせるのは難しい。
- ・ タブレットなどがあると、効果的ではないか。
- ・ タブレットは配置されていないので、ウェブカメラをパソコンに繋げて使用する工夫も良いのではないか。

【その他】

- ・ 児童も自信を持って、最後の発表会に取り組んでいる姿が見られた。
- ・ みんなでアワード活動が良かった。
- ・ 場の工夫がいろいろとされていて良かった。
- ・ 安全面を徹底したほうが良い。映像を見て危なかった。

まとめ概要

「めあてを持って学習をしているか？」ということが、体育だけではなく、他教科にも関連した大切なことであり、各授業でのめあてが、児童にしっかりと提示されて行われているかが大切である。今回の授業での教え合いや人間関係作りは、体育だけではなく他教科にも繋がっていて、それが良い授業のベースになる。

今回の授業では、学習カードが大きなポイントを占めていて、めあての書き方をしっかりとおさえ、活動の流れが分かりやすく、カードを見れば、その児童が今どのような状況にあるのかがよく分かるものになっていた。低学年には、このカードは難しいので、年齢に応じてカードを改良して応用してもらいたい。

体育科における評価については、「観察」のウェイトが非常に大きい。授業者の課題にもあるが、1時間の中で全員を観察するのは難しい。だからこそ、授業が終わっても見直せる学習カードや映像などがあると活用できる。また、量的評価（数値）だけで評価するのではないという部分についても押さえておきたい。

研究会で得た、貴重な意見を各学校に持ち帰って、これからの教育活動に役立てて欲しい。